

銀河Fun Club Magazine

vol. 7
September
2020



岩手川口駅に完成した「園井恵子花のみち」の前で。園井恵子の生き様を伝え続けることに情熱を傾ける姿は、園井恵子の生まれ変わりかと思えるほどである。

平和の使者、 園井恵子 を語り継ぐ

「あれは30年ほど前だったかしら。ふと手にした女性週刊誌に『原爆に散った未完の大女優～元タカラヅカスター園井恵子』って書かれたタイトルと、写真の美貌に惹かれてついつい記事に目を通したの。読み進めていくとね、さらにビックリ！彼女は私の故郷、岩手町の人だったのよ。私もね、3歳の時に初めて宝塚歌劇を観てから今までずっと『ヅカファン』なのよ。その私が園井さんのことを知らなかったのよね。」

そう語るのは柴田和子さん。「その時にね、私の胸の中で何かがふつふつと音を立てていたの。」園井恵子が柴田さんに「何か」を伝えたかったのだろうか。水面に広がる波紋の如く、園井にまつわる「縁」が柴田さんの周りに拡散していく。平成6年、地元有志による「園井恵子を顕彰する会」が発足し、副会長に就任。園井の同級生、故工藤剛嗣会長とともにブロンズ像建立のために東奔西走し、全国から多くの支援を得、ついに平成8

年「園井恵子ブロンズ像」を岩手町川口に建立した。以来、園井恵子を発信するイベントを次々と企画し続けている。

「園井さんを知れば知るほど、単にタカラヅカスターや女優というだけじゃなく、一人の女性としての素晴らしさに感銘を受けたの。またこともあるのか、あの原爆に、しかも誕生日に遭遇した数奇なめぐり合わせの意味することは何なのかって考えずにはおれなかったのよ。園井さんは平和を願う『神の使者』だと思うの。」

平成24年、園井の生きざまと足跡を後世に伝えるべく「園井恵子を語り継ぐ会」を設立し、平和の象徴としての園井恵子を、特に若い世代へ広める活動を始める。没後75年となる今年8月21日、岩手川口駅に「園井恵子花のみち」を創り、また一つ園井の生き様を象徴する場を私たちに提供している。柴田さんの活動はそれだけではない。地域の女性のための「おなご塾・おらんの会」や、岩手町の活性化に取り組む活動をするグループ「アウローラJ5」を設立し、様々な角度から岩手町に光を当て続けようと、あくなき挑戦を続ける女神そのもののような女性である。

柴田 和子 Kazuko Shibata

1948年岩手町出身。(社)岩手県芸術文化協会会長、財団法人岩手県文化振興事業団理事などを歴任。2016年開催の「希望郷いわて国体」では式典前演技部会長も務めた。また、「岩手おなご塾おらんど」の塾長、「アウローラJ5」の会長を務めるなど、地元岩手町の振興にも力を注ぐ。2017年文化庁地域功労者表彰受賞、2018年旭日宗光章受章。

銀河に暮らす夢中人

柴田 和子 さん

name



右上：平成8年に建立した園井恵子像。岩手川口にある「岩手町働く婦人の家」敷地内に静かにたたずんでいる。
右下：岩手川口駅旧駐輪場跡地に整備が進む「園井恵子花のみち」。ここは以前貨物専用の引き込み線があった場所だ。左上：園井恵子花のみち。左下：落成式での記念撮影。



若者に夢を！若者に希望を！ 「園井恵子 花のみち」が岩手川口駅に誕生！

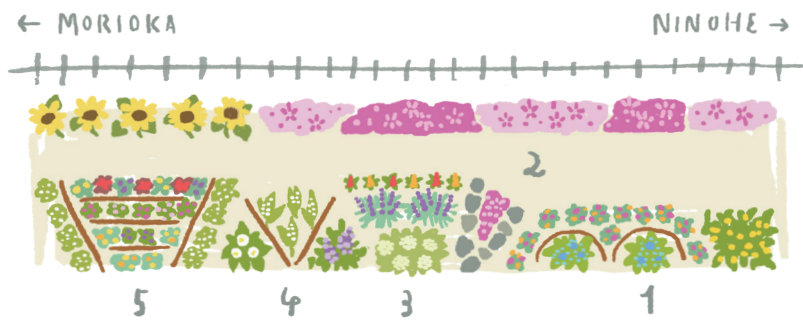
令和2年8月21日、原爆に散った未完の大女優・園井恵子75回目の命日となったこの日、岩手川口駅に「園井恵子花のみち」の落成式が行われました。

園井恵子（本名 袴田トミ 写真）は大正2年松尾村（現八幡平市松尾）で生まれ、生後10ヶ月から小学生時代を川口村（現岩手町川口）で過ごしました。昭和4年6月、15歳の園井は、幼少時から憧れ続けた宝塚へ家出同然で旅立ちます。強い意志を貫き通し、人の何倍も努力し、波乱万丈のドラマチックな、短くも濃密な人生を全力で駆け抜けます。

「園井恵子花のみち」は、園井が教えた「夢と希望を持つことの大事さ、そして実現させるための勇気」を、特に若い世代に伝えていく場にと、

「園井恵子を語り継ぐ会」が中心となってプロジェクトを立ち上げ、企画してきました。資金はクラウドファンディングをはじめとして、全額寄付で賄われています。

園井恵子は、あこがれの世界「タカラヅカ」に向けて、単身岩手を旅立ちますが、宝塚までは今と違って1日以上もかかる長い道のり。途中、不安や無謀な自分を責めることもあったでしょう。そんな彼女を温かく迎え入れたのは、宝塚駅から大劇場へと続く「花のみち」でした。この花のみちを旅立ちの駅「岩手川口駅」に創ることで、園井恵子の生き様を象徴する場にと考えられたのです。ここには園井恵子を象徴する花々が、彼女の生涯を5つのゾーンに分けて植栽されています。



1. 第一幕「憧れ」憧れのタカラヅカの世界。入寮当時、先輩からもらったヤマブキの花も。
2. 第二幕「旅立ち」山の小川から大海原へ！
3. 第三幕「飛翔」初舞台への挑戦。
4. 第四幕「想い」園井が愛して止まなかった植物のゾーン。
5. 第五幕「夢の舞台」「大階段」とスポットライトを表現。



上：岩手川口駅に完成した「園井恵子花のみち」。園井恵子ゆかりの花々が30m余りにわたって植栽され、駅に彩を添えている。左下：幼少時代を岩手川口で過ごした園井恵子。15歳の時、園井はここ岩手川口駅から単身、宝塚へ向かった。右下：園井恵子が最も愛した夏椿（白椿）、また最も園井恵子を象徴する花でもある。

園井恵子 花のみち

IGRいわて銀河鉄道 岩手川口駅前
■お問い合わせ
園井恵子を語り継ぐ会（会長 柴田和子）
☎0195-62-2307（トモエ商会内）



岩泉ワイン・オンラインツアーレポート

IGR銀河鉄道観光初のオンラインツアー。

第一弾では、リアルツアーでも好評だったワインを巡る旅を行いました！

日本一の山ぶどう生産量を誇る岩手県。7月19日（日）、リアルツアーでもお馴染みのワインバー「アカトーネ」主宰・松田宰氏の案内で、下道農園、くずまきワイン、安家洞、龍泉洞と、「いわいずみ山ぶどうワイン」を巡る旅「ソムリエと行くテロワールを探す旅 in 岩泉」を開催しました。

まずは岩泉町内の「下道農園」さんへ。オーナーの下道さんの案内で農園を訪問。山ぶどうは人力での細かい剪定が必要です。美味しいぶどうになるまでには大変な手間がかかっているのですね。美味しいぶどうを作る地質はどうなっているの？ということで「安家洞」さんへ。カルシウム質の多い石灰石が美味しいワインへと繋がっているのだなあと納得。因みに安家洞さんは総延長23.7kmの日本一長い鍾乳洞です。一般公開エリアの先には探検コースがあり、いつか挑戦したい！

取れた山ぶどうは隣町の「くずまきワイン」工場で

ワインになります。松田氏と旧知の仲、営業部長・鳩岡さんの案内で普段は入れない工場を見学。試飲もできて大満足です。

作られたワインは岩泉町の観光地「龍泉洞」の洞内ワイナリーでじっくり熟成されます。

神秘的なドラゴンブルーを堪能した先、通常は一般公開されていない通路に、ワインセラーが現れます。

適度な気温と湿度が美味しいワインを育むのです。

と、まるで現地ツアーを楽しんだようですが、参加された皆さんはご自宅で、龍泉洞内ワインセラーで熟成された「いわいずみ山ぶどうワイン」を飲みながら、パソコンや携帯の画面越しにクイズに参加しながら、チャットでコメントしながら、の参加でした。

コロナ終息の折には是非皆さんと岩泉町ワインツアーに出発したいですね！

ツアーでご用意したワイン

いわいずみ山ぶどうワイン（辛口）

岩泉町産山ぶどうのみを使って醸造し、冷暗な龍泉洞内のセラーで熟成した人気のワイン。普通のブドウに比べて渋みが少なく、柔らかい甘みと酸味がまろやかな口当たりが特徴です。

岩泉ホールディングス株式会社
<http://www.ryusendo-water.co.jp/>



■ツアー訪問先

龍泉洞 岩手県下閉伊郡岩泉町岩泉字神成1番地1 ☎0194-22-2566
安家洞 岩手県下閉伊郡岩泉町安家字日蔭161-1 ☎0194-24-2011
くずまきワイン 岩手県岩手郡葛巻町江刈1-95-55 ☎0195-66-3111

★最新のツアー情報は銀河鉄道観光 Facebookをチェック！→



銀河鉄道観光
岩手県盛岡市青山2-2-8（IGR青山駅構内）
☎019-601-9991



私とIGR

IGRと過ごす日々



滝沢市 釜石有里佳
Yurika Kamaishi

私とIGRの出会いには中学校時代まで遡る。IGRの開業前、当時地元の子供達であった私たちに新しい駅名のアンケートがとられた。「奥中山高原駅か、長いな〜」なんて思いながら回答した記憶があるが、今はすっかり定着している。

私の地元は奥中山。高校、大学の7年間ほぼ毎日IGRを利用して。高校時代は、毎朝七時四分奥中山高原駅発の電車で駆け込み乗車していた。この電車を逃すと遅刻決定。にもかかわらず、毎朝母の車はIGRの車両と並走していた。都会ならホームで「駆け込み乗車はおやめください」と止められるのだろうが、IGRは違う。学生が

走っている！と車掌さんや駅員さんが気付くと、「まだ乗る人いるよ」と合図を出して待っていてくれるのだ。なんてありがたい！きつと田舎の鉄道ならではの光景だろう。地元の穏やかさ、温かさを感じる（でも本当はダメですね、ごめんなさい）。IGRに揺られて通う時間は、貴重な睡眠時間でもあり、勉強時間でもあり、そして何よりもたくさんの人との出会い、交流の時間でもあった。一緒にIGRで通う友達、友達の友達と繋がり、毎日片道約一時間の通学時間はとても楽しい大好きな時間だった。

そんな私は、昨年からIGRの皆さんと一緒に仕事をする機会に恵

銀河鉄道観光は青山駅青山南口改札のとなりに店舗を構え、IGR沿線の企画ツアーや台湾などの海外ツアーまで、国内外のご旅行を幅広くご案内しております。

しかし、2020年に入ってから新型コロナウイルスによって大きな影響を受けています。

例年に比べてお取り扱いの激減し、弊社のみならず観光業界全体が苦境に立たされている状態です。

そんな中、新しい観光の形を模索すべく、取り組みを行ってまいりました。7月中旬には岩泉とワインを題材に据え、ビデオ通話ソフトを利用したヴァーチャルツアーを開催したほか、参加人数を制限することで3密を避け、感染対策を徹底した新しい形のツアーを実施しました。どちらの取り組みもお客様より好評をいただいております。

これからも、感染対策を徹底したツアーの造成、旅のご提案をしてまいります。そして、新型コロナウイルスが終息した後は、お客様に存分に旅行や観光を楽しんでいただけるよう、お仕事をしております。

ご旅行をお考えの際は、「そういえばあんな会社があったなあ」と思い出していただければ幸いです！



7月に行った「滝沢おさんぽツアー」。人数制限をして、皆さんとてくてくお散歩♪

仕事人のひみつ道具

ガイディンググレーバー

イヤホンを通してガイド等の説明を聞くことが出来る道具。3密回避に一役買っています。

IGRの仕事人



銀河鉄道観光

菅原公 Ko Sugawara

出身：宮城県栗原市
趣味：温泉めぐり



銀河鉄道観光の
ツアー情報は
こちら



続・銀河鉄道通勤OL

「本物の銀河鉄道」

文くどうれいん

高校時代、銀河鉄道で渋民駅と厨川駅への往復をしていた自分が、今度は会社員になって厨川駅と盛岡駅との往復をしている。不思議なものだ。銀河鉄道は確かに、かつて暮らしていた仙台の地下鉄と比べたらSuicaも使えなくて、本数も少ない。でも、電車を待つ時間と、電車に乗って移動している時間がわたしはとても好きなのだ。行きはきょう一日のことを考えて、帰りはきょう一日のことを振り返る。銀河鉄道の車両の、深い紫色の座席のシートの手触りが好きだ。着席して座面を撫でながら、「会社員のわたし」がグラデーションで「この世にたったひとりわたし」へと帰っていく、そういう心地がする。

その日は盛岡駅のプラットフォームで電車を待ちながら新しい連載の相談をするために銀座にいる担当編集と電話をしていた。「折角だから盛岡のことを書いてほしいんです」と担当は言い、そのタイトルはどうするかあでもないこうでもないとは十分ほど話をしていた。遠くから電車の光が見えたので、「あ、すみませんそろそろ銀河鉄道が来るので電話切ります」と言うと、電話の向こうで担当編集は「あはは、おもしろいですね」と言った。どうやら担当編集はわたしが冗談でそう言ったのだと思っただけらしい。



きょうもわたしは銀河鉄道に乗っている。あたりまで代わり映えのないと思うわたしの毎日が、誰かにとってはロマンチックであるかもしれないことを思いながら。

Rain Kudo



会社員。作家。著書に俳句と食のエッセイ集『わたしを空腹にしないほうがいい』『BOOKNERD』、エッセイ集『うたうおばけ』（書肆侃侃房）。連載に講談社群像「日日目分量」。昨年、マガジンハウス社 POPEYE にて『銀河鉄道通勤OL』を連載（現在は終了）。

お知らせ



今年、わたしと「だれか」の交流を描いたエッセイ集『うたうおばけ』を発売しました。盛岡や仙台のこともたくさん登場します。

絵／さとうひより Hiyori Sato



